

平成21年度成人式 大人の自覚と責任 爽やかに



8月15日(土)、町総合文化センターパルナスで、平成21年度の成人式が180人あまりの出席者を迎え開かれました。

例年満21歳を迎える学年を対象に行っていた成人式ですが、今年から満20歳の学年を対象とするよう変更したため、2学年対象の成人式となり、受付前のエントランスは、再会を喜び合う成人でごった返しました。

記念撮影後の式典では、古川政昭教育委員長が「皆さんが船出する現在の社会は、百年に一度といわれる経済不況の中だが、夢の実現に向かって歩んでくだ

さい。」と式辞を述べ、続いて町長が「若い人の柔軟な発想がこれからの日本には必要。感性を磨いて力を発揮してほしい。」とお祝いの言葉を新成人に贈りました。

その後、新成人を代表して叶早織さんが「今、大学で学んでいるが、大人としての自覚を持ち、がんばりたい。」と誓いの言葉を述べました。

式典終了後は、出席できなかった中学校恩師のビデオレターを鑑賞し、懐かしい先生が登場すると、笑いや歓声が漏れていました。

職業の大変さと 大切さを肌感じて

3人が博物館で 学芸員実習

7月30日(木)～8月12日(水)の14日間にわたって、町博物館では3人の博物館実習生を受け入れました。

この実習は、博物館の専門職員となる資格「学芸員」を取得するために、大学からの依頼に



20歳になってやってみたいことを新成人に聞いてみると、「大人という感じがする。家族と一緒に海に行きたい。」(小泊地域 丸山慎矢さん)、「学生だけど、働いて自分の車を持ちたい。」(中里地域 野上規朗さん)、「来年就職なので、稼いで家族を旅行に連れて行きたい。」(中里地域 田中杏奈さん)など、新成人らしい爽やかな答えが返ってきました。

よって行われるもので、福長志暢さん(弘前学院大学4年)、乗



小泊婦人会が 港湾道路を草むしり奉仕

7月21日(火)、小泊婦人会の皆さんが臨港道路の草むしり奉仕を行いました。

まつりに向けて、観客に気分よく道を通ってもらおうと企画されたもので、会員の皆さんはマリンパークまでの歩道に生えた草を、丁寧に手で抜き取っていました。

婦人会の皆様、本当にありがとうございました。



田康代さん(弘前学院大学4年)、三上愛さん(東北芸術工科大学4年)が博物館業務の体験しました。

3人はまず、小泊地域の坊主沢遺跡で発掘作業を体験。なかなかつらかったようですが、他の博物館ではあまりやらない作業だそうで、実習生にとっては貴重な経験だったようです。その後は、博物館の調査研究活動や資料の取扱い方、展示公開の仕方と続き、最後は実習生が企画展のアイデアを発表しました。

実習を終えた3人は、2週間に及ぶ実習の充実感が漂っていました。「もっと大人数で運営していると思った。思ったよりも作業が多くて大変だったが、これでゆっくり寝られる。」(福長さん)、「発掘は掘り当てるとおもしろい。社会教育的なメニ

ューもあり、貴重な体験だった。歌って踊れる学芸員を目指したい！」(乗田さん)、「学芸員の仕事量の多さにびっくりした。少ない人数で管理運営をし、休みもままならない体制では本当に大変だと思った。今回の実習で中里のことをよく知ることができた。」(三上さん)と、それぞれ感想を述べていました。皆さん、すばらしい学芸員になってください。



消防団 町を守る人たち一堂に

8月23日(日)、町文化センターパルナス駐車場で、平成21年度の消防団定期観閲式が、本部と10分団合わせて200人以上が参加のもと開催されました。

観閲式は、日頃の訓練の成果を披露したり、服装・機械などを点検する目的で開かれ、観閲者の町長ほか多数の来賓を招いて、凛々しい雰囲気の中行われました。

この中で、幼年防火クラブの



演技も行われ、中里幼稚園の園児たちがかわいい演技を披露し、

大切に育てるよ！ 中里保育所に花の贈呈

7月31日(金)に中里保育所で、(株)コメリによる花の贈呈と寄せ植えの指導が行われました。

コメリから3人の方がお花や鉢などの材料を持参し、3歳児以上の児童が参加の下、寄せ植えの指導を行いました。

晴天の中、児童たちは前庭で、ブルーサルビアほか数種類を鉢に植え、元気に育つようお願いを込めながら水をかけました。

お花の贈呈ありがとうございました。いただいた鉢植えは、毎日ひまわり組の児童が水をかけて手入れしています。



たくさんのお客が目を細めていました。
また、放水訓練、玉落とし競技も行われ、空高く舞い上がる放水の曲線に、観客たちが見入っていました。

第32回西北地域 農山漁村女性のつどい

生活に根ざす 改善の努力を発表

西北五地方の生活改善グループが一堂に集まり、「第32回西北地域農山漁村女性のつどい」が、8月20日(木)中央公民館で行われました。

このつどいは、普段から加工品づくりや産地直売などに取り組んでいる意欲ある女性たちが集まり、成果や情報を交換することでグループ活動の発展を図ろうと、昭和51年から続いている活動です。

農業者や漁業者の女性たちで構成されたグループの会員の前で、町長が「女性の社会参加が求められる時代。親睦を図りながら、加工品づくりや販売を通して産業の活性化に貢献してほしい。」とあいさつ。西北地域県民局農林水産部長は、「農村が元気でないとされるが、そ

ひろって町をクリーンに

8月7日(金)、中泊町たばこ販売促進協会による清掃奉仕が行われました。

これはJTが進めている「ひろえば街が好きになる運動」の一環で、参加者は中央公民館からパルナスまでの道のりを、袋を持ちながら歩いてごみを拾いました。

参加した方からは、「これからは、環境が大切な時代になってくる。喫煙者にはマナーを守ってタバコをたしなんでもらいたい。」という感想が聞かれました。皆さん、お疲れ様でした。



んなことはない。産直はいまや100億円産業で、みなさんの活動のおかげだと思っっている。」と述べました。
会員はこの後、意見発表を行った後、薄市生活改善グループの

佐藤イネ子さんが「食育を取り入れた我が家の農業」と題し、子どもたちを通じて、アスパラガスの給食提供や消費者との交流、メロンのオーナー制などをユーモアたっぷりに発表しました。
後半は、ほほえみ講習会「ほほえんで、笑って、元気になるう！」を行い、ほほえみで食育や消費者交流をうまく進めるためのテクニックを学びました。
発表を行った佐藤イネ子さんは、「つどいで人とのつながり、交流ができる。皆さんがいろいろな活動していることが分かってよかった。今後の自分の農業・活動に生かしていきたい。」と話していました。